

8ヶ国語に対応した情報モラル学習セットの開発

今度珠美（鳥取県情報教育サポーター）

概要：ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、中国語、韓国語、英語、日本語に対応した情報モラル学習用のリーフレット、プレゼンデータを作成した。内容は喫緊の3つの課題に絞り、翻訳にあたっては各国の生活習慣に配慮し、理解しやすいよう言語ごとに内容を調整した。外国語に対応可能な相談機関の連絡先も記入した。翻訳したリーフレットは、島根県教育庁を通じて島根県内の小中学校、特定非営利活動法人等に配布し、活用いただいた。学習セットの概要と、今後の課題について報告する。

キーワード：情報モラル教育、小学校、保護者、多言語、外国人

1 研究の背景

国内の労働者不足を担うため、日本政府は外国人労働者の受け入れを拡大している。島根県では、定住している外国人が約 6300 人に達する。平成 27 年 12 月末現在、出雲市には 2744 人の外国人が暮らし、国籍別でみるとブラジル国籍（言語：ポルトガル語）が最も多く 6 割を超えている。（多文化共生プラン 2016）（表 1）

表 1 出雲市に定住する外国人数

国籍	世帯数	男	女	合計
総計	62,919	84,759	90,359	175,118
日本	61,093	83,223	89,151	172,374
オーストラリア	1	3	1	4
ブラジル	1,216	1,232	524	1,756
ドミニカ	33	0	33	33
バングラデシュ	10	14	14	28
カンボジア	20	0	20	20
カナダ	6	6	1	7
中国	259	86	278	364
コロンビア	1	1	1	2
フィンランド	1	0	1	1
フランス	1	1	0	1
インド	3	3	0	3
インドネシア	18	6	19	25
イタリア	0	0	1	1
ジャマイカ	2	0	2	2
朝鮮	16	19	10	29
韓国	58	69	69	138
ラオス	0	0	1	1
モンゴル	3	4	5	9
ペルー	1	1	0	1
フィリピン	53	25	159	184
ロシア	0	0	1	1
スイス	0	0	1	1
タイ	2	2	2	4
タンザニア	1	1	0	1
英国	1	2	0	2
米国	13	9	7	16
ベトナム	106	50	58	108
無国籍者	1	2	0	2
外国人住民計	1,826	1,536	1,205	2,744

外国にルーツを持つ子どもの急増により、教育現場では学習指導の他に生活指導面でも様々な課題が生じている。その一つがインターネット上での交流、個人情報漏洩、ネット依存による不登校などのインターネット接続機器利用に

起因する問題である。しかし、多言語に対応する情報モラル教育教材、啓発リーフレットがなく、また、文化的背景の違い、言語コミュニケーションの困難さから、外国人生徒への指導は難しい現状にある。筆者の訪問校では、担任教諭が教材を選択し個別に手探りで指導を続けていた。また、多くの教育現場では、多言語に対応した相談機関も周知されていない。

このような現状を踏まえ、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、中国語、韓国語、英語に翻訳した情報モラル学習リーフレット、プレゼンデータ教材を作成し、教育現場で学習や啓発に役立ててもらおうこととした。

2 教材の概要

(1) 対象

小～中学校児童生徒、およびその保護者

(2) 言語

ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、中国語、韓国語、英語、日本語

(3) 内容

学習教材として、リーフレットとプレゼンデータを作成した。内容は、「個人情報の取り扱いについて」「ネットで知り合った人との交流について」「ネット依存について」の3項目とした。翻訳にあたり、直訳ではなく各国ごとに生活習慣

に配慮し文章を構成した。外国語に対応可能な相談機関の連絡先も配置した。(図1)

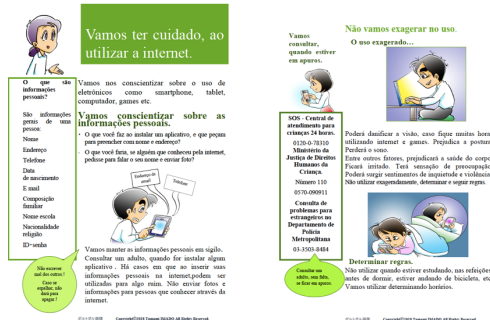


図1 ポルトガル語リーフレット

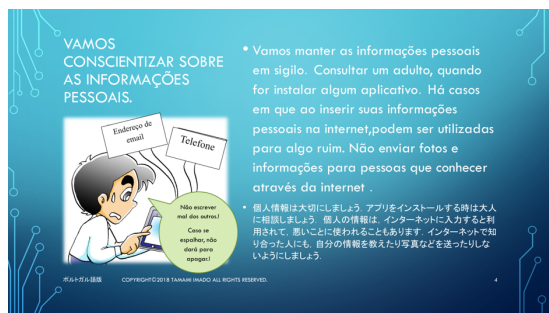


図2 プレゼンデータ1

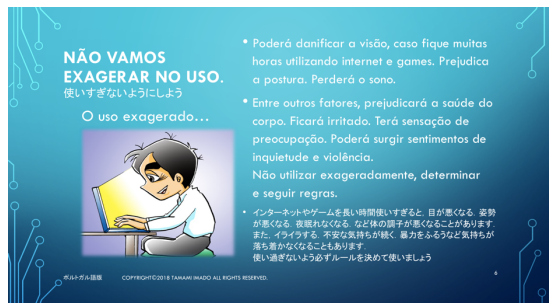


図3 プレゼンデータ2

リーフレットはインターネットで公開し、自由にダウンロードできるように設定した。各言語のプレゼンデータは指導の流れを添付し、ページごとに掲示したり紙芝居としても利用できるようなレイアウトを工夫した。(図2)(図3)

3 活用結果

翻訳したリーフレットは、島根県教育庁を通じて島根県内の小中学校、しまね国際センター、外国にルーツを持つ子どもの学習支援を行なっている特定非営利活動法人エスペランサに配布

した。配布後には、活用の仕方や言語の要望などの問合せが寄せられた。タガログ語版、韓国語版は学校からの要望により追加し作成したものである。外国にルーツを持つ子どもとその保護者は、情報モラルの学習などを受けたことがないため、各国の文化的背景、生活習慣に配慮しながら理解を深めてもらう必要があった。そのため、寄せられた意見を基に言語ごとに掲載する情報の修正を行った。ベトナム語、スペイン語版に関しては分かりやすさに配慮し小学校用、中学校用の2種類を作成することとした。また、「外部機関に相談する」という経験がない子どもや保護者が多いため、相談先の電話番号等を分かりやすくレイアウトするなど改良した。プレゼンデータは、イラストやアニメーションを多用したことで、スライドショー、掲示、プリント資料としても活用いただくことができた。

4 今後の課題

今後は、教材の種類を増やし、ロシア語など他の言語にも対応できるようにする。インターネット上で随時更新、公開することで、全国の必要とされる教育現場で容易に利用できるようにし、本教材活用の効果検証も行う。

5 謝辞

本教材開発にご協力をいただいた山田マリアルイサ氏、白田アン氏、青木ローティス氏、鳥取大学総合メディア基盤センター、島根県人権啓発推進センター、しまね国際センター、前田康裕氏に深く感謝の意を表したい。

参考文献

- (1) 児島明(2006), 「ニューカマーの子どもと学校文化-日系ブラジル人生徒の教育エスノグラフィ-」, 勁草書房
- (2) 出雲市多文化共生プラン
<http://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1467621853264/index.html>
 (Access 2018. 8. 15)